

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：32408

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2023

課題番号：20K22210

研究課題名(和文) グローバルシティズンシップ教育の多元主義的理念の解明ーカント教育学を手がかりにー

研究課題名(英文) Investigating the pluralistic idea of global citizenship education.

研究代表者

大森 一三 (Itizo, Omori)

文教大学・国際学部・准教授

研究者番号：20826557

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果として、主に次の3点が挙げられる。第一に、カント教育学に込められた世界市民性の陶冶という理念が、地域的/水平的だけではなく時代的/垂直的な意味でも多元主義的であることを明らかにした。第二に、カントとディルタイの教育学および倫理学との比較考察により、両者の思想の共通点と相違点を明らかにした。第三に、「グローバルシティズン・シップ」という理念の探究は、徳倫理学が目指す「徳の解明」という課題と、かなりの程度重なるという解釈を示した。それゆえ、今日の徳倫理学の成果を教育哲学と接続することは、今後の「グローバル・シティズンシップ教育」の推進について寄与しうることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「シティズンシップ教育」における国家主義的教育と「グローバル・シティズンシップ教育」に求められるグローバルな規模での普遍教育との架橋という課題の解決に向けて、次の2つの事柄を解明した。第一に、カントおよびディルタイの教育学および倫理学の中から、一方的な普遍主義ではなく、自身の文化および時代的制約を相対化し続け、異なる文化と時代の価値観との対話的態度を養うという多元的な「グローバルシティズンシップ」の意味を認めることができることを解明した。第二に、さらなる本研究の課題の推進のために、徳倫理学と教育哲学との比較研究が有益であることを示した。

研究成果の概要(英文)：There are three main outcomes of this study.

First, it was clarified that the idea of the cultivation of global citizenship in Kant's pedagogy is pluralistic not only in a regional/horizontal sense, but also in a chronological/vertical sense. Second, a comparative study of Kant's and Dilthey's pedagogy and ethics revealed similarities and differences between their ideas. Third, I have shown in my interpretation that the exploration of the idea of 'global citizenship' overlaps to a significant degree with the task of 'clarifying virtue' that virtue ethics aims to address. Therefore, it was shown that connecting the results of today's virtue ethics with the philosophy of education can contribute to the promotion of 'global citizenship education' in the future.

研究分野：哲学、倫理学、教育思想

キーワード：グローバル・シティズンシップ教育 多元主義 カント ディルタイ 哲学教育 徳倫理学

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日、グローバル化の進展に伴い、世界中で非包摂的な傾向が顕著になっており、西欧社会を中心として、多文化主義に対する疲労感や国家主義への退行というかたちで近代的な市民性概念に危機が訪れている。他方、こうした潮流の中で、UNESCO は、「グローバル・シティズンシップ教育 (Global Citizenship Education)」を提唱し、多様な価値観の尊重やサステイナブルな世界に寄与する「世界市民 (The global citizen)」の理念を掲げている。さらに、世界的な規模での感染症の拡大や急速に悪化する地球環境との共存、両立不可能なほどの地域間格差によって生じる問題という課題を前に、「世界市民」概念の再検討と、従来型の「シティズンシップ教育」を超える「グローバル・シティズンシップ教育」の検討は必須であると言える。

(2) 「グローバル・シティズンシップ教育」の研究における課題と考えられるのが、「シティズンシップ教育」における国家主義的教育と、「グローバル・シティズンシップ教育」に求められるグローバルな規模で国境、民族、文化差を超えた普遍的な教育をどのように架橋するべきかという課題である。「世界市民 (Global Citizen)」の哲学的理念の形成に決定的な影響を与えたイマヌエル・カントの世界市民的教育論に関する近年の研究を土台に、世界的市民性および世界市民的教育の特徴と意義を解明することが、この課題の解決に寄与しうると考える。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、イマヌエル・カント (Immanuel Kant, 1724-1804) が世界市民的教育論の中で重視していた多元主義的な思考・態度の育成の理念の歴史的意義を解明してゆくことで、今日の「グローバル・シティズンシップ教育」に対するカントの世界市民的教育論の意義を解明することをめざす。

(2) カントの世界市民的教育論の現代的意義として、彼の世界市民的教育論の中心に、多元主義的な思考・態度の育成という理念が位置していることを明らかにする。そして、現代の「グローバル・シティズンシップ教育」の課題克服のために、この多元主義的な態度・育成という理念の重要性を解明し、この理念の具体化のために哲学教育が果たす役割を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、「世界市民 (Global Citizen)」の哲学的理念の形成に決定的な影響を与えたカントの世界市民的教育論に関する近年の研究を土台に、「グローバル・シティズンシップ」および「グローバル・シティズンシップ教育」の歴史的意義と特徴を哲学教育との関連に定位して探求してゆく。

(2) 「グローバルシティズン・シップ教育」の研究にとって、カントと並んでディルタイ (Wilhelm Dilthey) の解釈学および倫理学の特徴とその影響についての探究が必須である。したがって、カント教育学及び倫理学に込められた世界市民性の陶冶とディルタイの解釈学及び倫理学を比較考察し、そこから浮かびあがってくる「グローバル・シティズンシップ教育」の特徴と課題を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 今日の「グローバルシティズン・シップ教育」の多様性について注目し、その多様

性と 18 世紀ヨーロッパの啓蒙の時代における世界市民教育の理念および明治期の日本の「啓蒙」概念との比較研究を行った。研究の対象としたのは主に、ジャン=ジャック・ルソーとイマヌエル・カント、三宅雪嶺、田口卯吉、福沢諭吉などである。彼らの世界市民教育、成熟、啓蒙概念に関する研究を進めると同時に関連の文献を収集し、研究を進めた。その結果、たしかに今日の「グローバルシティズン・シップ教育」の多様性は、かつてオードリー・オスラーとヒュー・スターキーが指摘したように、「シティズンシップの変容」を示すものではあるものの、こうしたシティズンシップ教育の多様性は、たんに時代社会の変化や要請に応じてのみ現れてきたわけではなく、むしろ、もともとシティズンシップ教育の歴史的な理念の中に胚胎していたものが展開してきたと捉えることを明らかにした。

(2) 「グローバルシティズン・シップ教育」の理念の解明について、現代の徳倫理学からのカント倫理学批判とその応答をめぐる研究を批判的に考察することによって研究を進めた。その結果、カント倫理学において徳の重要性を論じる主張は、徳倫理学者たちがカント倫理学批判を行う際に典拠としてあげる『人倫の形而上学の基礎づけ』や『実践理性批判』といったいわゆる批判的倫理学ではなく、彼の実践哲学全体、とりわけ「教育論」のなかに看取できることを示した。つまり、カントの実践哲学全体を見渡すならば、普遍的義務を強調する形式主義的倫理学としてのカント倫理学ではなく、感情や徳の重要性を強調し、徳を含む倫理的な性格の陶冶の重要性を強調するカント倫理学という解釈を示すことができることを明らかにした。

(3) カント倫理学および教育論で強調される「世界市民主義的な性格」の内容として、自己(自文化/自国)中心性からの脱却と他者および多元主義的な価値の尊重という特徴を挙げることができることを示した。同時に、カントの世界市民的教育の理論は、こうした多元主義的な価値を尊重できる主体の育成という側面と形式的普遍主義という側面を併せ持つものであることを明らかにした。

(4) カントの教育学および倫理学と今日の徳倫理学との比較考察を通じて、カント教育学に込められた世界市民性の陶冶という理念が、たんに地域的/水平的な意味で多元主義的なものではなく、時代的/垂直的な意味でも多元主義的であることを明らかにした。こうした特徴は、今日の「グローバル・シティズンシップ教育」にとっても重要なものであると言える。さらに、こうした考察の成果をディルタイの教育学および倫理学と比較、対照することにより、これまで国内の研究においては十分明らかにされていなかったディルタイ倫理学の特徴や主要論点を浮かび上がらせた。

(5) 上記の研究成果を踏まえ、カントの倫理学および教育学、ディルタイの解釈学および倫理学、そして徳倫理学の諸研究から、今日の「グローバル・シティズンシップ教育」がめざす「シティズンシップ」のありかたとして、3つの条件を提示可能であることを示した。その3つの条件とは、「世界市民主義あるいは多元主義」「脱自己(自文明)中心主義」「可謬主義」である。この3つの条件は、「グローバル・シティズンシップ教育」の研究における課題である「シティズンシップ教育」における国家主義的教育と、「グローバル・シティズンシップ教育」に求められるグローバルな規模で国境、民族、文化差を超えた教育との架橋可能性についての解答でもある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大森一三	4. 巻 23
2. 論文標題 徳への問いと批判哲学の射程 カントの世界市民的な徳の教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本カント研究』	6. 最初と最後の頁 114,126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大森一三	4. 巻 33
2. 論文標題 ディルタイのカント倫理学批判再考 ディルタイ倫理学の徳倫理的解釈の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ディルタイ研究	6. 最初と最後の頁 59,79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大森一三	4. 巻 84
2. 論文標題 世界市民的教育の理念と啓蒙の課題の解明の試み—ルールソーとカントにみるグローバル・シティズンシップ教育の理念の考察—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『法政大学文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 61,70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15002/00025585	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大森一三
2. 発表標題 ディルタイのカント倫理学批判再考 ディルタイ倫理学の徳倫理的解釈の試み
3. 学会等名 ディルタイ研究会関西研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大森一三
2. 発表標題 徳倫理学における徳の教育の課題
3. 学会等名 現代思想研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大森一三
2. 発表標題 徳への問いと批判哲学の射程 カントの世界市民的な徳の教育
3. 学会等名 日本カント協会第46回学会大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大森一三
2. 発表標題 カント研究会合評会『カントの世界市民主義—十八世紀ドイツ啓蒙におけるカント歴史哲学の知識社会学的研究』後半部についての考察とコメント
3. 学会等名 2020年度カント研究会 8月例会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 比較文明学会創立40周年記念出版編集委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東海教育研究所	5. 総ページ数 501
3. 書名 人類と文明のゆくえ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------